

事業者等向け 令和4年度放課後課後等デイサービス評価表

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・設置基準の3倍のスペースを確保しており、事故防止の為に安全配慮にも務めている。 ・運動活動を行う際は、机などの障害物を片付け、場の設定も活動前に職員間で検討し、運動が十分にできるように工夫している。 ・運動授業では課題の内容により座学で使用する机を端に寄せるなど、活動に応じて十分なスペースが確保されていると感じる。 ・活動内容に応じて、机や教材の移動を行い、活動スペース・安全性の確保に努めている。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準を満たし、加配職員も欠かさず配置する事ができている。専門性については、社内研修を毎月実施の他、月に数回模擬授業を行い、全職員が知識と技能の向上を図る環境が整えられている。 ・職員が各々で役割分担を行い、当日の活動前に話し合いを行う時間を設け、活動に臨んでいる。 ・1月までは適切であると思われたが、2月以降職員の配置数が変わり、また今後学習や個別に対応する児童も入ってくる事が予想されるため、現段階ではどちらともいえないと感じる。 ・社内研修や、県が実施する研修を通じて知識の研鑽に努めている。同性介助の徹底もされている。
適切な支援の提供	3 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*が作成されているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・毎月モニタリング会議を開催し、職員同士で情報共有及び意見交換が行われている。保護者と定期的な面談以外にも日々の情報交換を行い、分析に基づいたサービス計画が作成されている。 ・作成者の主観だけで判断しないように、職員間で定期的に話し合いを行う時間を設け、その情報を反映させて、放課後等デイサービス計画を作成している。 ・面談や送迎時に保護者から個別に話を伺い、子ども一人ひとりのその時のニーズに柔軟に対応し計画されていると感じる。 ・それぞれ児童に適した課題設定、計画が提案されている。 ・個別対応児童等は担当職員、保護者と意見を交えながら作成がなされている。
	4 運動プログラムが固定化しないようバリエーションを付けた工夫がなされているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を事前に立て、計画に沿った形で月替わりの運動授業を計画し、毎月結果の評価も行っている。 ・昨年度の年間指導計画と重ならないように、年度に在籍している児童の能力と向上すべき課題を鑑み、学校の行事や活動にも反映できるように工夫し、計画を立てて活動を進めている。 ・毎月課題の内容が変わることや、前年度に行った運動でもその時の児童のレベルに合わせプログラムを組み変化をつけることができている。 ・月替わりで運動プログラムの変更がされている。
保護者への説明等	5 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約前に体験・説明会を個別で開催しており、プレゼンテーションを行っている。 ・契約時にも支援内容及び利用者負担について説明を行っている。 ・玄関対応の際には、当日の児童の様子やどのような課題があるのかを放課後等デイサービス計画で立てた目標と照らし合わせながら説明している。 ・体験時や契約の際に十分な説明がなされていると感じる。また、ご利用後も疑問点には都度対応・確認し利用者・保護者が納得されている様子がうかがえる。 ・利用者負担については面談時や説明会等を通じて、多くの場合、管理者が対応、説明にあたっている。支援の内容については玄関対応を通じて、活動内容や目標、各個人の課題について職員が説明をしている。
	6 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ児童を引き渡しの際に口頭で情報共有を行っている他、LINEや連絡帳を介して相談対応や情報伝達を行っている。 ・児童の情報は話し合いを行う時間を設け、共通認識を図り、どう支援していくかを変化する日々の中で決め、職員間で同じ目的を持って行っている。 ・基本的に送迎時や連絡帳を通してその日の様子やその時の課題などをお伝えしている。ただし、児童によっては学校や家庭での様子などがわからず、完全に共通理解ができているとは言い切れないと感じる。 ・家庭、学校、事業所での様子を玄関対応時や面談の際に情報共有し、共通理解がなされている。
	7 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、半年に一回以上の面談を行っており、併せて家庭内での出来事等の相談にも専門的見地で助言に当たっている。 ・面談を行っていないため、判断が出来ない。 ・6か月ごとに必ず面談を行われ、保護者支援に努めている。 ・半年に一度の個別支援計画の見直しの面談を必ず行っており、家庭での過ごし方や事業所、学校での振る舞いを踏まえた助言・提案がされている。
	8 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情窓口を設けており、有事の際には児童発達支援管理責任者及び管理者が早急な対応を取っている。その際には保護者や家庭の事情に配慮しつつ誠意をもって状況説明に務め、問題解決に当たっている。 ・現在苦情と思われる案件はないが、苦情に繋がり、誤解が生じないように日頃からどういった意図で支援を行っているかを説明し、活動中も保護者や児童への信頼を得るために事故や怪我が起きないように場の設定や対応の仕方を話し合っている。 ・以前に籍していた児童の保護者から苦情がくることがあったが、その際は可能な限りで保護者に説明し対応されていたと感じたが、納得はされていなかった。 ・職員間での情報共有を徹底し、社内での検討、迅速な対応がされている。都度、保護者・児童への説明も怠らず対応している。
	9 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・会話内容について個人情報を守り、情報漏洩を防いでいる。相談時には時間や場所を考慮し、安心して相談が受けられる様に配慮を行っている。 ・連絡帳や電話やlineのようなツールを用いて、保護者や児童と情報交換がしやすいように工夫している。 ・来所した児童とは各指導員が可能な限り休み時間等挨拶やコミュニケーションを取る事ができている。また、保護者に対しては面談や送迎時・連絡帳を通してその日の様子や課題の内容などについて報告を逐一行っている。 ・児童によっては筆談や、指導員と1対1になれる場を設け、意思の疎通・情報伝達における配慮を行っている。保護者とはLINE、電話、口頭、連絡帳といった様々な方法でやり取りをしている。
	10 個人情報に十分注意しているか	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・保管義務のある個人情報は鍵付書庫にて管理をしている。廃棄する場合には確実にシュレッダーにかけて取引業者へ引き渡している。ネットへの情報公開の際、個人が特定が出来ないように処理をしてから公開している。 ・個人情報はまとめて児童の目に届かない場所へまとめられている。 ・注意していたつもりであったが、個人で以前、連絡帳を間違えて渡してしまうなどいうあってはならないミスをしてしまった。以降は徹底し、同様のミスはない。 ・個人情報が見られるようなものはすべて人の目に触れないようしまわれており、必要に応じて出し入れをしている。

事業者等向け 令和4年度放課後課後等デイサービス評価表

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
	11 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・年に二回、活動中を想定した避難訓練を全利用者及び職員が実施している。 ・避難訓練では、地震や火災など様々な状況を想定して、定期的に行っている。その際には、どのような意識付けや避難の仕方が求められるのかを考え、職員間でも消防訓練や通報訓練など対応できるように練習している。 ・半年に一回、各曜日一度は避難訓練を行っている。また、今年度は地震と火災のパターンごとに分けて訓練を行うことができた。 ・年に2回、1週間通じての避難訓練や職員間での通報訓練が実施されている。
	12 子どもの社会性*2とコミュニケーション力*3は向上したか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・教室が目標としている社会性・コミュニケーション力の向上について、日々集団での療育を経験していくことで身に付く事が出来ている。 ・児童が自発的に行動できるようにグループ活動を設け、話し合って何かを決める場面を増やしている。 ・児童によって時期は異なるが、大きく向上した児童が多いように感じた。 ・自身の課題に対するポジティブな気持ち、ネガティブな気持ちを、児童が直接、職員や保護者に伝えている姿が見られるようになってきた。
	13 子どもの運動能力・協応動作*4は向上したか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画及び毎月の教材会議の中でプログラムを決めており、定期的な通所をしていく事で運動能力全般の向上が図られている。 ・児童の能力向上のため、段階的に課題を出して、必要な能力に応じた支援を行っている。 ・運動では！周目に難しい動きでも繰り返し練習し月の終わりには目標を達成できる児童が多く、向上されていると感じる。 ・昨年度、台上前転が難しかった児童、縄跳びが殆ど跳べなかった児童が、療育を通じて出来るようになってきている。
満足度	14 子どもの視覚認知機能*5は向上・改善したか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・視覚トレーニングでは毎月教材を入れ替えており、バリエーションに工夫をしている。15分のSAQトレーニング直後に行われている為、相乗的に向上が図られている。 ・運動療育だけではなく、座学で行う課題の中で、目と手の協応動作が向上できるように段階的に課題を出して進めている。 ・運動ほどはつきりとは現れないことが多いが、直写や視覚トレーニング等座学課題で年間を通してできることが増えている児童が大半である。 ・視覚トレーニングの度重なる練習を通じ、処理が早くなっている児童が多くなる。また、視写での活動を通じ、読める字が素早く書くことが出来るようになった児童も増えた。
	15 子どもは通所を楽しみにしているか	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・概ね楽しみにして通所している。児童本人や保護者から「楽しみに通所している」とご報告を受けている。行き渋りで通所が難しかった利用者は今年度は把握しているだけで約60名の内2名。 ・児童がどのような課題であれば、自己肯定感も高められ、楽しんで通所できるかを職員間で話し合い、計画を立てて活動に臨んでいる。 ・大半の児童が通所を楽しみにしていることがうかがえるが、行き渋りを見せる児童もいるためはいとは言い切れないように感じる。 ・課題へのモチベーションが高く、意欲的に来所している児童や、運動の上達を望み、自身から保護者へスポットの希望を出す姿も見られるようになってきた。一方で、課題に対する苦手感や、成功体験の不足から行き渋りのある児童も見られる。
	16 事業所の支援に満足しているか	4			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度保護者アンケートでは100%の結果だったが、途中退所した利用者もいる為、全員に満足して頂くには更なる職員の技能向上と支援体制の強化が必要と考える。 ・児童の成長を支援する中で、感じるが増え、自分自身の自信にも繋がりが、満足している。 ・運動能力、微細運動能力、コミュニケーション能力など、多くの児童に成長が見られるため。 ・前年度と比較しても多くの児童が運動面、情緒面で大きく成長を遂げている。より多くの児童が成功体験を積んで行けるよう、療育の質を高めていきたい。